

2020 年度活動報告 学部授業：日本語 I～IV（総合政策学部）

牲川 波都季（関西学院大学総合政策学部）

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

学部正規留学生 1・2 回生を対象とした必修科目。1 週間に 2 コマ、それぞれ【読む・書く】【話す・聞く】の技能を扱う。目標は、実際の日本語運用を通して、アカデミックなことばの力（ことばを用いて自らの問題と解決方法を見つけ出し、それらを他者とともに考えていく力）を身に付けるとともに、日本語を使うことへの自信と意欲をもてるようになることである。また、他の留学生との関わりを深めることも重視している。

科目名	対象・学期	クラス数・履修者数	技能	
日本語 I	1 年・春	3 クラス・計 30 名	読む・書く	オンデマンド型（LUNA）
			話す・聞く	オンデマンド型（LUNA）
日本語 II	1 年・秋	3 クラス・計 28 名	読む・書く	同時双方向型（Zoom）
			話す・聞く	同時双方向型（Zoom）
日本語 III	2 年・春	3 クラス・計 31 名	読む・書く	オンデマンド型（LUNA）
			話す・聞く	オンデマンド型（LUNA）
日本語 IV	2 年・秋	3 クラス・計 30 名	読む・書く	同時双方向型（Zoom）
			話す・聞く	同時双方向型（Zoom）

表 1 2020 年度 日本語 I～IV（総合政策学部） 授業形態

2. 授業内容

日本語 I	読む・書く	「最近の悩み」意見交換，新聞記事の紹介
	話す・聞く	人物紹介の発表
日本語 II	読む・書く	「私の好きな場所」についてのレポート執筆
	話す・聞く	日本社会（政策など）についての調べ発表、話し合い活動
日本語 III	読む・書く	「最近の悩み」意見交換，新聞記事の紹介
	話す・聞く	賛否のある社会的課題をテーマとした発表
日本語 IV	読む・書く	「魅力的な人」についてのレポート執筆
	話す・聞く	地域社会との関わりを考える課題解決型発表

表 2 2020 年度 日本語 I～IV（総合政策学部） 授業内容

日本語 I (春学期)

【読む・書く】

流れ：～6週：最近の悩みを掲示板に書き、回答を書きあう（2セッション）。

～14週：自選の新聞記事を紹介し、掲示板で意見交換（2セッション）。

特徴：学期初めは掲示板で悩みの相談と意見交換を行った。その後、最近の新聞記事を自選し紹介・意見交換を行う活動を行った。緊急事態宣言下での不安、オンライン授業での負担増加を考慮し、日本語クラスは、今考えたいことや悩みを書き共有する機会となるよう努めた。

【話す・聞く】

流れ：～5週：プレゼンテーションの動画を視聴し、良い発表には何が必要かを考え、自身の発表の目標を設定する。掲示板で意見交換。／～8週：発表準備と録音（個別指導）／～11週：発表視聴と相互コメント（全員 Zoom の利用が可能なクラスは同時双方向型で実施）／～14週：振り返り

特徴：オンデマンド型の授業で話す力・聞く力の向上を目指すということで、到達目標を対面授業のものから変更し、独話の力の養成を中心に新たな授業計画を考えた。1年生最初の授業であるため、良い発表とはどのようなものか確認した上で大学で学んでいくために自分に必要な力を考える活動を行った。

日本語 II (秋学期)

【読む・書く】

流れ：～2週：アイデア検討／～5週：紹介文の検討／6週：他クラスと交流

～9週：下書きの検討／～13週：レポートに相互コメント

14週：他クラスにレポート紹介

特徴：昨年度は「大切だった1年」をテーマとし同様の活動を行った。今年度は直近のコロナ禍のインパクトが強すぎるため、過去の時期ではなく、移動が難しいからこそそのテーマとして「好きな場所」でレポート執筆活動を行った。

【話す・聞く】

流れ：～3週：資料収集とテーマの検討／4週：他クラスと交流／～8週：構成検討／～10週：発表準備／～13週：発表と振り返り／～14週：他クラスと交流（2, 5, 8週目に話し合い活動を実施）

特徴：学生側の環境が整い、Zoomを使った同時双方向型の活動を授業に取り入れることが可能になった。そこで、春学期には行えなかったやりとりの中での話す・聞くの力の向上を目指し、グループワークや話し合い練習の機会を多く設けた。

日本語 III (春学期)

【読む・書く】

流れ：～5週：最近の悩みを掲示板に書き、回答を書きあう（1セッション）。
～13週：自選の新聞記事を紹介し、掲示板で意見交換（2セッション）。
14週：他クラスの新聞記事紹介を読む。

特徴：日本語 I の特徴と同様。異なる点は新入留学生より落ち着いていると予想されたため、悩みの意見交換の時期を短くし、新聞記事紹介の開始時期を早め、学期末に記事紹介文を共有する課題を入れた点である。

【話す・聞く】

流れ：～3週：発表テーマの決定。掲示板で意見交換。／～5週：中間発表準備と録音（個別指導）／～7週：中間発表視聴と相互コメント（全員 Zoom の利用が可能なクラスは同時双方向型で実施）／～10週：最終発表準備と録音（個別指導）／～13週：最終発表視聴と相互コメント（全員 Zoom の利用が可能なクラスは同時双方向型で実施）／～14週：振り返り

特徴：オンデマンド型の授業で話す力・聞く力の向上を目指すということで、到達目標を対面授業のものから変更し、独話の力の養成を中心に新たな授業計画を考えた。論拠を示して説得的に自分の考えを述べる方法を学ぶことを目的とし、テーマは賛否のある社会的な課題とした。

日本語 IV (秋学期)

【読む・書く】

流れ：～2週：アイデア検討／～5週：紹介文の検討／6週：他クラスと交流
～10週：下書き（対話結果）の検討／～13週：レポートに相互コメント
14週：他クラスにレポート紹介

特徴：本来は春に予定していた活動。オンラインなどで対話（インタビュー）が可能と判断されたため実施した。他者と距離をとらざるをえない状況下で、他者と対話すること、他者の存在の意義を認識してもらうことをめざした。

【話す・聞く】

主な流れ：～3週：担当テーマの決定と情報収集／4週：他クラスと交流／5週：
ゲストスピーカーの話／～9週：支援策の検討／10週：背景と課題の発表
／～13週：支援策の発表（合同発表会）／14週：振り返り

特徴：オンラインでの協働が未知数であったため、昨年度グループ発表で行った授業を個人発表の形に作り替えて実施した。それに伴い目標のひとつであった「合意形成のための話し合い方法を身につける」は目標から外し、評価の対象とはしない形で授業活動内に話し合いの機会を設けることとした。

3. 成果と今後の課題

日本語 I (春学期)

【読む・書く】悩み相談は生活上のささいなことからオンライン授業の苦労まで多様で、意見交換の意義はあった。一方で、オンデマンドで実施したため、見ず知らずのクラスメートや教員に深刻な悩みは伝えにくかった可能性がある。

【話す・聞く】発表について各々が自分の伸ばしたい力を明確にし、今後の目標を立てることができた。当初、オンデマンド型授業で新1年生にどの程度課題等の指示が伝わるか不安に感じていたが、記述方法を工夫することでうまく伝えることができた。一方、学生の学習状況の把握については、課題への取り組みやLUNAの最終アクセス等を手掛かりとするしかなく、顔の見えない中で指導することの難しさを感じた。

日本語 II (秋学期)

【読む・書く】「私の好きな場所」として、故郷や日本語学校など多様な場所が選ばれたため、深い自己紹介としての意味があった。場所は過去の思い出と結びつくことが多く、それを見つめた結果、未来の自分への提言で終わるレポートも見られた。

【話す・聞く】話し合いの活動が、話す・聞くの練習の機会であると同時に他の留学生との交流を深め安心感を得る場となっていたことが、最終授業の学生たちの感想から感じられた。オンライン授業が中心の中、そのような場が作れたことには意義があったと思う。

日本語 III (春学期)

【読む・書く】新聞記事についての紹介文の執筆、相互コメントの執筆について、取り組みへの熱意に学生間の差が大きかった。オンデマンド授業であったこと、他授業の履修・課題に追われていたことが原因として考えられる。

【話す・聞く】学生によって取り組みに差が見られた。オンデマンドで毎週の課題をきちんと積み重ねることができた学生は最終的に内容の充実した興味深い発表となっていたが、毎回の教員からのフィードバックを上手に生かせていない学生もいた。

日本語 IV (秋学期)

【読む・書く】「魅力的な人」として、友人・先輩、家族、バイト先の同僚・上司などが選ばれ、対話の結果、新しい魅力を発見した例も多かった。ただし、品行方正な人物に偏る傾向があり、「話してみたい人」のような幅広いテーマの設定を検討したい。

【話す・聞く】今年度も学生に意欲的に取り組んでもらうことができた。グループ発表で実施した昨年度に比べると、なかなか議論が深まっていかない印象を受けた。グループでの協働が難しい状況が続くとすれば、議論を深めるための工夫を考えたい。